

●復活後第一主日

泉のほとり

おはよう

今月の詩編 「第九十八編」

主は来られる、地を裁くために。

主は世界を正しく裁き

諸国の民を公平に裁かれる。



主イエスは過越祭の子羊が屠られる日に、十字架で死なれました。安息日になる前、アリマタヤのヨセフが主の身体を引き取り、墓に納めました。マグダラのマリアともう一人のマリアは、十字架での死と「葬り」のすべての時を最後まで見届けていました。「主の死」がいかに確たる事実であるのかを、彼女たちほど知っているものはいません。主の死の目撃者であり、証人です。

安息日が終わって、週の初めの日の明け方、二人のマリアは深い悲しみの足取りで墓に赴いたのでしよう。その時、大きな地震が起こり、稲妻のように輝く主の天使が天から降つてきて、墓の石を転がし、その上に座りました。番兵たちは恐ろしさのあまり震え上がり、死人のようになっていたのです。天使はマリアたちに「恐れることはない。あなたの方は、ここにはおられない。かねて言われていたとおり、復活なさったのだ」と告げました。天使が石を転がす前にすでに、主の墓は空っぽになっていたのです。天使は「さあ、遺体の置いてあつた場所を見なさい」と言われました。

天使から「急いで行って弟子たちにごう告げなさい。『あの方は死者の中から復活された』」と語られ、二人は恐れながらも大いに喜び、急いで墓を立ち去り、弟子たちがいるところへ走つて行きました。すると、その行く手に主イエスが現れてくださったのです。「おはよう」と声をかけられました。いつもの主が立つておられ、いつもの朝、交わされた日常の挨拶です。この明け方まで、もう二度と会えない悲しみと絶望の中になりました。だからこそ、この「おはよう」という一言が再び聞ける日常がどれほど幸いで喜びであるかを深く気付かされます。二人は近寄り、生きておられる主の足を抱き、ひれ伏しました。主は「行って、わたしの兄弟たちにガリラヤへ行くように言いなさい。そこでわたしに会うことになる」と言われ、彼女たちを死の証人から、復活の証人として遣わされました。

墓が空っぽであることを確かめたのは、マリアたちだけではありません。夜通し墓の番をしていた兵士たちも、その目で見、経験した一部始終を祭司長たちに報告しました。ところが祭司長たちは自らを改めず、兵士たちに多額の金を与え、「弟子たちが夜中に死体を盗んで行った」と嘘を言いふらすよう指示したのです。兵士たちは金を受け取り、その指示通りにしました。自分のたましい、その命と引き換えに偽りを流し、多くの人を惑わした責任は非常に重いものです。

しかし、どのような噂を流し、何を企てても「事実」は変わりません。この世の人々が惑わされ、全世界が作り話を信じて、あつた事実が事実です。この世が何度ひっくり返ることがあつても、主イエスの復活の事実は変わりません。目先の都合のために偽りのもとで築かれたこの世での営みは、実体がないゆえに、その崩れ方も激しいこととなるでしょう。神が御子を復活させられた事実のもとに、神のご支配は働いているのです。

主イエスの復活の事実がかけがえのないものであるのは、「おはよう」という主のことが表しています。「この杯を過ぎ去らせてください」と祈られ、私のために血を流し死んでくださった私の主が、生きておられます。愛する主が復活され、最も身近な人たちに「おはよう」と声をかけてくださる。これ以上に喜ばしいことがあるでしょうか。

私たちの喜びは、私のために死んでくださった方が今も生きておられること。私の望みは、「おはよう」と声をかけてくださる復活の主とお会いすることです。その希望に生きる人に、世の富は目を惹きつけるものではありません。目先の都合のためには真実から目を逸らした偽りの生き方ほど、空しいものはありません。むしろ私たちはそのような肉の業を捨て、主イエスにお会いする時に備え、主が喜ばれることに目を向けて生きるのです。不当なことを受けても、それがどうしたことでしょう。主イエスが生きておられるからです。

2026年度

教会全体課題

神さまによって

示された新しい歩みの中で、
キリストの体としての一致を

祈り求める

ーコミュニケーション、交わり、
伝道、学びなどを通してー

《今日のお知らせ》

○二〇二六年度の聖書通読表を作りました。事務所のカウンターにありますので、是非ご利用ください。

《ぶどうの会より》

本日、ぶどうの会を第二・三シオンルームで行います。

《ルツの会より》

本日の礼拝後、ルツの会をカナンルームで行います。民数記二二章から学びます。聖書、讃美歌をお持ちの上、ご参加ください。

《シオンの会より》

四月二五日（水）一〇時三〇分～一二時シオンの会を地下ホールで行います。（オンラインも併用します。）
テキスト「使徒言行録を読もう」P.八六～一二アンテオキアの教会の誕生（二一章一九節～三〇節）を読みます。
新しく参加を望む方は川越啓子姉までご連絡ください。

《交 読 詩 篇》

※会衆は太字の箇所を唱和します。
 (司・会)の箇所は司式者と会衆が合わせて唱和
 します。

【詩篇九十八篇】 賛歌。

新しい歌を主に向かって歌え。

主は驚くべき御業を成し遂げられた。

右の御手、聖なる御腕によって

主は救いの御業を果たされた。

主は救いを示し

恵みの御業を諸国の民の目に現し

イスラエルの家に対する

慈しみとまことを御心に留められた。

地の果てまですべての人は

わたしたちの神の救いの御業を見た。

全地よ、主に向かつて喜びの叫びをあげよ。

歓声をあげ、喜び歌い、ほめ歌え。

琴に合わせてほめ歌え

琴に合わせ、楽の音に合わせて。

ラッパを吹き、角笛を響かせて

王なる主の御前に喜びの叫びをあげよ。

とどろけ、海とそこに満ちるもの

世界とそこに住むものよ。

潮よ、手を打ち鳴らし

山々よ、共に喜び歌え 主を迎えて。

(司・会)

主は来られる、地を裁くために。

主は世界を正しく裁き

諸国の民を公平に裁かれる。

《今日の子ども礼拝》

●子ども礼拝(午前9時20分・地下ホール)

説教 「心は燃えていたではないか」

聖書 ルカ24章28〜35節

説教者 宮間彰広兄

《次週の礼拝》

●子ども礼拝(午前9時20分・地下ホール)

説教 「主イエスの証人たち」

聖書 ルカ24章36〜48節

説教者 宮間彰広兄

●主日礼拝(午前10時30分・礼拝堂)

讃美歌 148番 234A番

説教 「神が先立つて行かれる」

聖書 創世記12章1〜7節

ヘブライ人11章8〜16節

説教者 吉村和雄名誉牧師





主日礼拝 (午前10時30分)

讃美歌 154番 265番
説教 「殺してはならない」
聖書 出エジプト記20章13節(旧約 P.126)
司式 石川一兄
聖餐司式 黄允湜 牧師
説教者 黄允湜 牧師

前奏曲「キリストは死の縄目につき」 J.S.バッハ

○讃美歌154番

1.地よ 声たかく 告げ知らせよ

きょう イエス君は よみがえれり
いのちの君は あまつ園に
われらを召して 入れたまえり

2.とこよのひかり てりかがやく

みくらにいます 君を仰がん
あめより洩るる かちうたにぞ
地なるわれらも 声をあわせん

3.あめよ よろこべつちようたえ

ものみなともに ほめたたえよ
イエス君 きょうぞ よみがえれる
ああかぎりなき さかえの日よ

アーメン

○讃美歌265番

1.世びとの友となりて 自由をあたうため
わが主は世にくだりて 罪をきよめたまえり

2.この世の闇をてらし なやめる人をすくう
わが主をあおぎのぞみ またき救いを求めん

3.きみこそ まことの道 いのちのいずみなれば
ちからの御手にすがり われはひたすら励まん

アーメン

聖餐曲「イエス、我が信頼」 J.G.ガアルター

後奏曲「おおみ神をほめまつれ」 L.レーン